



金魚の夜

- キンギョノヨル -

熱帯夜ではだめなのです。

どこか水のようにまったりとして、けれども不意に冷たさを感じるような、歩いている間、まるで水の中を泳いでいるような、そんな空気の夜でなければなりません。

そういう水の夜を歩いていると、時々すれ違ふんですよ。たっぷりとした大きな体を揺らしながら、尾ひれをくゆらせて浮かび泳ぐ、金魚と。あれはなんでしたっけ、ランチュウ、という種類かと思われます。

その一見してグロテスクと思われそうな顔や姿、けれども優雅な泳ぎに見惚れても、決して、後をついてはだめですよ。



ただただ、すれ違ふのみに終わらせておくのが
吉なのです。



何故ついていってはいけないのか？

まさしくあなたはそれが気になるはずですよ。

まあ、実際に後をついていってみれば解ること

ですけれど。私の口からはとてもとてもお教えできませぬ。そういう、ことなのです。

え、後をついて行かれるのですか？

止めませんよ。

他人の好奇心を止められるほどの人間ではありませんのでね。



……そうそう、金魚とすれ違う夜には、よく、水たまりを見かけますよ。ええ、水たまりです。何色かは、見ればわかりますよね？

桃色や白色の艶めいたものだとか、白く硬いものも、よくお見かけいたします。

私が言えるのは、これくらいです。



……噂をすれば、金魚ですね。

これはまた、見事な。私が見た中で一番の体です
ね。でっけりとして。さぞ、たくさんの餌を食べてき
たのでしょね。栄養素が豊富で、食べる部分の多い。



それでは、私はこれにて。

どこに行くのかって？

そんなの決まっています。家に、帰るんですよ。

それでは、ごきげんよう。素晴らしい夜をどうぞ。



影絵金魚協力

・シルエットデザイン

<http://kage-design.com/wp/>

